

# 現在巴

所	ツレ	シテ
近江粟津	寄手の兵	巴
	ワキ	
	源義仲	
	ツレ	
	今井兼平	
	ツレ	
	立衆	

次第

く。

早きや報なるらん。

義仲

「これは木曾義仲なり。我いやしくも弓馬の家に生

れ。君に仕ふると申せども。

シテ義仲

「平家は既に世を取つて。く。二十余年の春の花。

秋の紅葉と栄えしに木曾の山風吹き下し。我身の運を開けしに。みだれがはしき世の中は。唯身の程ぞ恨なる。く。

義仲

「皆々かう來り候へ。如何に巴。これ迄参る事神妙

なりさりながら。今日は義仲が最期にあるぞ。いづ方へも落ち候へ。

シテ

「これは仰にて候へども。君には片時も離れ参らせず候。今此際に御暇とは巴を未練者と思召し候か。

義仲

「いや其儀にてはなし。義仲は最期迄女武者をつれたりと。他の人口も憚なれば。急いで落ち候へ。シテ「御詞をかへすは恐なれども。御最期の際となりて。

他の人口もいるまじや。同じ枕に討死して。二世の御供申すべし。

義仲

「實にくそれはさる事なれども。誠の心あるならば。形見を持ちて古郷へ帰り。様かへ跡弔ひ申すべしと。

地「涙にむせび宣へども。理や古郷を。出でゝ越路の道迄も。巴は命ながらへて。今此際に成りぬれば。落ちよと仰せ候は。情なの御事や。何れの国の果

迄も。命のあらん其程は。御供に参るべし情なの今御詫やな。時刻うつりて叶ふまじ早々帰れ帰れとて。座敷を立たせおはしませば。力なくして巴は。行くも行かれぬ御名残。涙にむせぶばかりなり。く。

ワキ立衆

「よせかくる。汀の波のおのづから。音も烈しき。

夕嵐。

シテ  
「抑これは木曾殿の御内に。其名を得たる女武者。

今日を限の軍ぞと。寄せ来る勢をぞ。待ちかけたる。

地 「敵はこれを見るよりも。く。あれは巴か女武者。あますな洩すな討取れとて。我もくと進みけり。

シテ 「一騎当千の秘術をつくし。

地 「一騎当千の秘術をつくし。ふせぎ戦ひ追払ひ。討たるゝ者は数を知らず。唯一人に斬りたてられて続く兵なかりけり。

ワキ 「爰に武蔵の住人に。

地 「恩田の八郎師重とて。巴に組まんと飛んでかゝるをわだがみつかんで引寄せて。首ねぢ切つてぞ捨てにける。

シテ 「今は巴もこれ迄なり。

地 「今は巴もこれ迄なりと長刀追つとり駒引きよせて。ゆらりと打ち乗り木曾の浅ぢふかけし中の。

由なかりける契の末ぞと行方も知らず成りにけ  
り。

底本：国立国会図書館デジタルコレクション『古今謡曲解題』丸岡桂著  
『四流対照謡曲二百番 上巻』芳賀矢一訂